

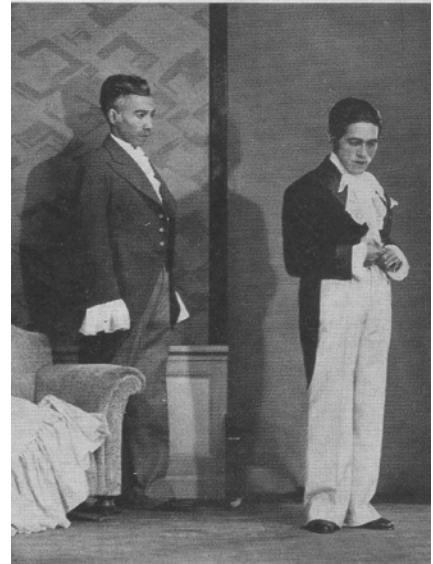


## 2. 松山芳野里の《5つの日本的な歌》

作曲者の Yoshinori Matsuyama は松山芳野里 (1891-1974)。大正から昭和にかけて活躍したテノール歌手。松山は当初、東京音楽学校でヴァイオリンを学んでいたが、声楽への転科を希望。これが学校に認められなかったため、同音楽学校を中退、帝国劇場と歌手契約をした。大正4年から昭和15年にかけて、アメリカ、イギリス、フランス、イタリア、ドイツで活躍。

《5つの日本的な歌》は、フランスにいたころに書かれたものであろう。1922年にスナール社から「室内楽シリーズ」の一環として出版。出版の経緯は不明だが、楽譜のイラストも松山の手になるもの。曲はいずれも日本のよく知られた歌による。

- Ex. 第1曲 「ねんねんころりよ」  
第5曲 「さくらさくら」



▲ 歌劇『椿姫』でアルフレッドを演じる松山(右)。1933年の公演。

[https://commons.wikimedia.org/wiki/File:Vocal\\_four\\_chor\\_La\\_traviata\\_1933\\_Scan10019.jpg](https://commons.wikimedia.org/wiki/File:Vocal_four_chor_La_traviata_1933_Scan10019.jpg)

### *Cinq chansons caractéristiques japonaises* (5つの日本的な歌)

1. Berceuse (子守唄)
2. Chanson de pêcheurs (漁師の唄)
3. Chanson d'amour (愛の唄)
4. Chanson de Yedo (江戸の唄)
5. Chanson de serises (桜の唄)

- 松山の師はレイナルド・アーン(Reynaldo Hahn 1874-1947)？  
『音楽年鑑 昭和46年度版』(音楽之友社)には、松山の師として「レーナード・ハーン」の名が。⇒ 正しくは「レイナルド・アーン」。  
アーンは作曲家でテノール歌手。美しい歌曲を多数作曲。
- フランス語の歌詞は誰が書いた？  
楽譜の目次には、二人のフランス人女性の名が翻訳者として掲げられているが、詳細不明。

## 3. 仏蘭西で聴く日本の歌

- 松山、フランスで《5つの日本的な歌》を歌う  
1924年(大正12年)4月28日、日仏交歓会 La Journée franco-japonaise で。  
(ピアノ伴奏は Marie-Jeanne Etchepare)
- 歌の里帰り  
帰国後、松山は《5つの日本的な歌》を改訂、国内で出版(第4曲を除く)。